

4. 随想 パソコン手習い 大谷博康

突然パソコンが壊れた。データが消えてしまった。ショック・大ピンチだ。日頃バックアップしておくように言われたのに、こんなことが自分に降りかかるとは、全く想定外だった。会社生活を卒業してからの開放された気持のあれこれを書き留めておいたものだ。日々感じた事を日記風に記し、旅行の記録・テレビ・ラジオ・読書・映画・講演等の感想である。それに一番大事なデジカメで撮り貯めた写真画像が全て消えてしまった。データが消えてなくなるなんて思ってもいなかったが、過去の記憶が無くなってしまおうと思うと悔しくて情けない。

この反省で、思い切ってパソコン教室に入学することした。恐る恐る顔を出してみると、ほぼ60歳以上の人達だが、みな意欲的なところを見せている。何十年ぶりだろうか教室で先生に教えてもらう体験は満更でもない気分である。現役時代には我流でパソコンを使いこなしていた(?)つもりであったが、それは上面だけで、知らないテクニックがこんなに沢山あったのかと今さらながら独りよがりなところが身に染みて感じられた。

初日は先ず正しいWindowsXPの基本操作の再確認からであった。画面の説明でアイコン、タスクバー、ファイル、フォルダ、ドライブ等の用語が次々と出て来て戸惑ったところから始まった。用語を使って学習が進むので、そこでもたついて肝心の本筋が抜けると困るので懸命に追いかけた。2日目はバックアップとデータ保存の方法の学習だ。これが入学のそもそものきっかけだけに、一言も聞き逃さぬよう緊張の連続であった。

学習のステップは次々と進み、パソコンを使ってのシールやレターセット、ランチョンマット、更にアルバム作りまで発展していく。デジカメ撮影技術や映像の整理を覚え、画像入りだけでなく音楽入りメール送信が出来、今やブログ作成と広がっている。物を学ぶ喜びは、幾つに成っても同じであり、次の授業が待遠しいと思ったのは最初だけで、週1回のテンポは予想以上に早く、覚えるより忘れるほうが早いという実態である。そこで割切ることにした。一生懸命に覚えるのではなく、楽しみながら学ぶ、忘れたらまた教えてもらう。その繰返しでも良いのではないか。同じ悩みを持った生徒たちが教室で笑い、頭を掻き、楽しい時間を共有する。そして今日も仲間達のいるパソコン教室へ出掛けて行く。